

九重山の火山活動解説資料(平成20年12月)

福岡管区气象台

火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成19年12月1日に噴火予報(噴火警戒レベル1、平常)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

12月の活動概況

- ・噴煙など表面現象の状況(図2)
噴煙は白色、極めて少量で高さは概ね100mで推移し、特段の変化はありませんでした。
- ・地震、微動活動(図2、図4)
火山性地震の月回数は10回(11月:13回)と少ない状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動(図1、図3)
GPS連続観測では、長者原-坊ガツル及び長者原-牧ノ戸峠の基線長に、1995年から1996年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる、長期的な縮みの傾向が見られます。

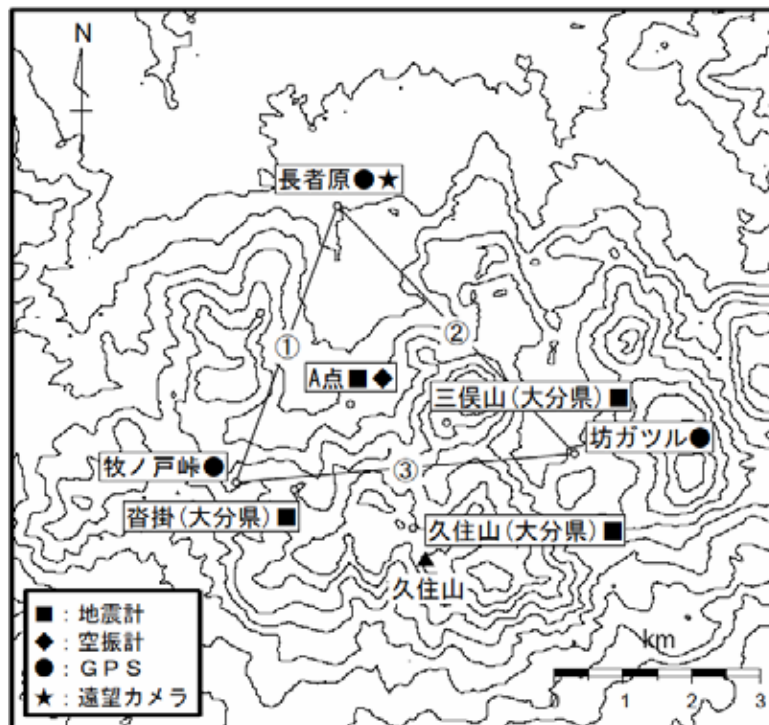


図1 九重山 観測点配置図

この資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、防災科学技術研究所、大分県のデータを使用しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ(標高)」を使用しています(承認番号:平20業使、第385号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成21年1月分)は平成21年2月6日に発表予定です。

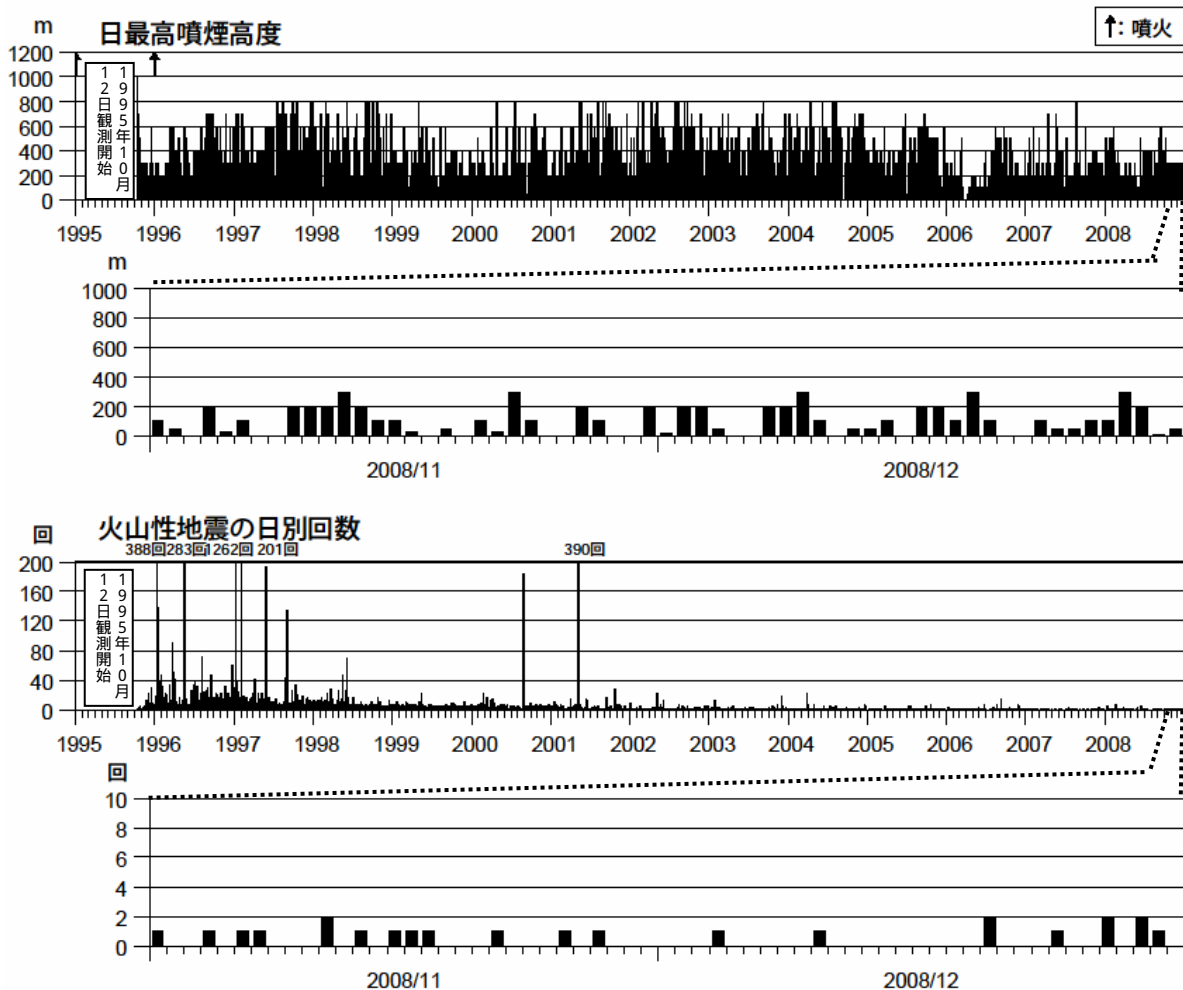


図2 九重山 火山活動経過図(1995年10月12日～2008年12月31日)
火山性地震月回数は10回(11月:13回)と少ない状態で経過しました。

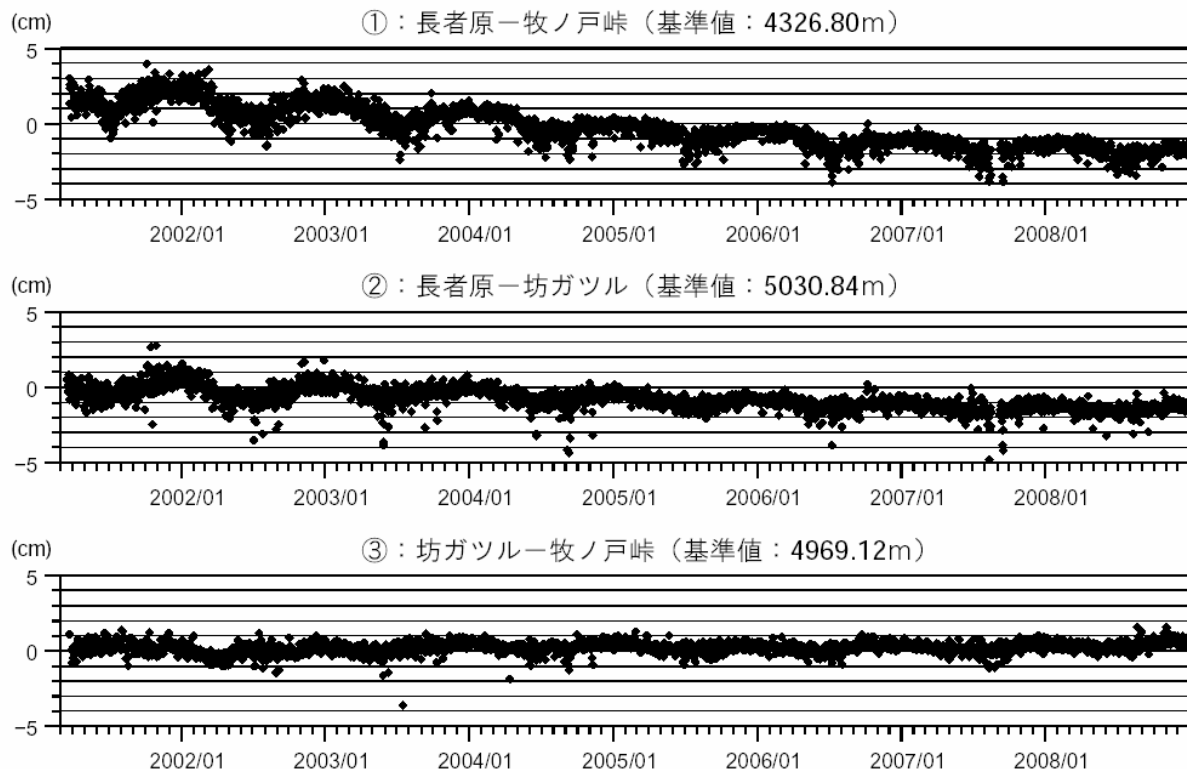


図3 九重山 GPS連続観測による基線長変化(2001年3月～2008年12月)
GPSによる連続観測では、長者原-坊ガツル及び長者原-牧ノ戸峠の基線長に、1995年から1996年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる長期的な縮みの傾向が見られます。

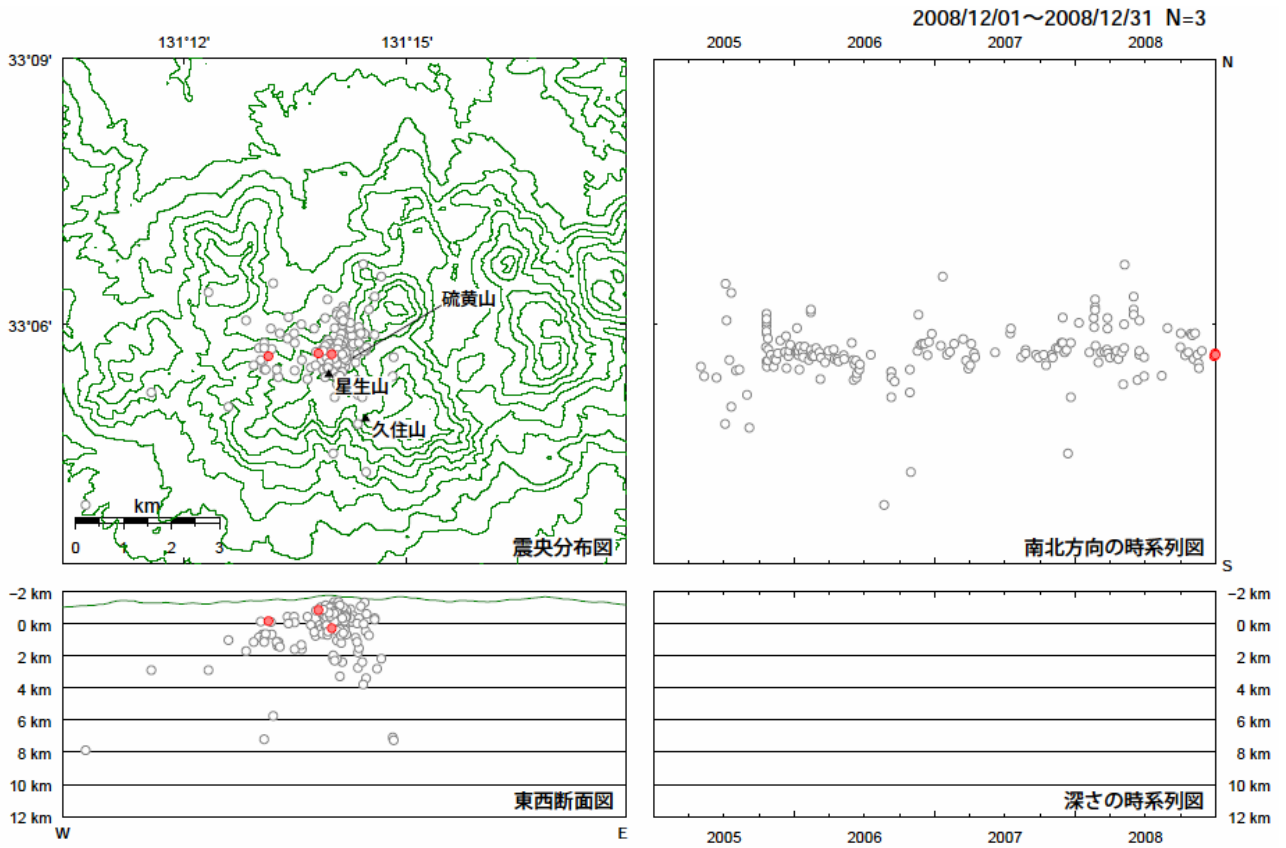


図4 九重山 震源分布図(2005年4月~2008年12月)
今期間、震源は山体付近の浅いところに分布しました。